



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

2021年2月4日

上場会社名 株式会社雪国まいたけ 上場取引所 東  
 コード番号 1375 URL https://www.maitake.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 足利 巖  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画本部長 (氏名) 小室 雅裕 TEL 025 (778) 0162  
 兼 経営企画部長 兼 IR・広報部長  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月5日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績 (2020年4月1日~2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	39,712	2.5	7,098	13.5	6,503	10.3	4,259	12.7	4,265	12.8	4,271	13.1
2020年3月期第3四半期	38,726	-	6,253	-	5,897	-	3,779	-	3,780	-	3,775	-

	基本的1株当たり四半期利益		希薄化後1株当たり四半期利益	
	円	銭	円	銭
2021年3月期第3四半期	107.04		106.94	
2020年3月期第3四半期	94.86		94.80	

(注) 当社は2020年7月30日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益を算定しております。

(参考)

	調整後営業利益		調整後EBITDA		調整後四半期利益		1株当たり調整後四半期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
2021年3月期第3四半期	7,365	15.0	8,838	14.7	4,703	19.0	118.03	19.0
2020年3月期第3四半期	6,404	-	7,706	-	3,952	-	99.18	-

#### (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に帰属する持分		親会社所有者帰属持分比率	
	百万円		百万円		百万円		%	
2021年3月期第3四半期	36,512		8,615		8,620		23.6	
2020年3月期	35,199		4,901		4,899		13.9	

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2020年3月期	-		0.00		4,230.00	0.00
2021年3月期	-		14.00		-	
2021年3月期(予想)						28.00
						42.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は2020年7月30日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。2020年3月期につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を表示しております。

### 3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	52,678	3.8	8,324	24.4	7,783	17.1	5,099	17.4	5,099	17.3	127.96

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は2020年7月30日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。連結業績予想の「基本的1株当たり当期利益」は、当該株式分割後の発行済株式数(自己株式数を除く)により算定しております。

(参考)

	調整後営業利益		調整後EBITDA		調整後当期利益		1株当たり調整後当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	8,618	24.9	10,453	20.5	5,466	27.6	137.17	27.6

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	39,850,000株	2020年3月期	39,850,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	-株	2020年3月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	39,850,000株	2020年3月期3Q	39,850,000株

(注) 当社は2020年7月30日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

(その他特記事項)

- (1) 当社グループは、国際会計基準（以下、「IFRS」という。）を適用しております。
- (2) 調整後営業利益＝営業利益＋マネジメントフィー＋上場関連費用
- (3) 調整後EBITDA＝調整後営業利益＋減価償却費及び償却費
- (4) 調整後四半期（当期）利益＝四半期（当期）利益＋マネジメントフィー＋上場関連費用＋リファイナンス関連損益＋調整項目の税金調整額
- (5) (2)及び(4)において、「上場関連費用」は、上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のためのIFRS導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用であります。また、「リファイナンス関連損益」は、当社非公開化後に実施したリファイナンスに関連して一時的に発生したアドバイザー費用等であり、同リファイナンスに伴う契約金利の低下によって発生した一時的な利得とそれに連動して発生する残存契約期間における支払利息の増加額を相殺しております。
- (6) 1株当たり調整後四半期（当期）利益＝調整後四半期（当期）利益÷期中平均株式数
- (7) 調整後営業利益、調整後EBITDA、調整後四半期（当期）利益及び1株当たり調整後四半期（当期）利益はIFRSにより規定された指標ではなく、当社グループが、投資家にとって当社グループの業績を評価するために有用であると考えられる財務指標であります。当該財務指標は、上場のために発生した費用や非経常的損益項目（通常の営業活動の結果を示していると考えられない項目、あるいは同業他社に対する当社グループの業績を適切に示さない項目）の影響を除外しております。なお、調整後営業利益、調整後EBITDA及び調整後四半期（当期）利益に影響を及ぼす項目の一部を除外しており、分析手段としては重要な制限があることから、IFRSに準拠して表示された他の指標の代替的指標として考慮されるべきではありません。当社グループにおける調整後営業利益、調整後EBITDA及び調整後四半期（当期）利益は、同業他社の同指標あるいは類似の指標とは算定方法が異なるために、他社における指標とは比較可能でない場合があり、その結果、有用性が減少する可能性があります。

(決算補足説明資料（決算説明資料）の入手方法について)

決算補足説明資料（決算説明資料）は、T D n e tで開示するとともに、2021年2月4日付にて当社ウェブサイトに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報)	11
(1株当たり利益)	12
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年4月1日から12月31日)における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う経済活動の停滞により、大変厳しい状況が続きました。当第3四半期連結会計期間においても、当初、政府主導の経済政策による経済回復の兆しも見られましたが、その後、新型コロナウイルス感染症の急激な再拡大を受け、依然として予断を許さない状況が続いております。

国内きのこ市場の状況は、外出自粛に伴う家庭での調理機会の増加や、健康意識の高まりを背景とした機能性食材の需要が拡大したことにより、国内きのこ消費量は堅調に推移いたしました。一方、当第3四半期連結会計期間中は、11月初旬から12月中旬にかけて全国的に温暖な天候に恵まれ、葉物野菜を中心に生育順調による出荷量の増加、また新型コロナウイルス感染拡大に伴う外食産業の落ち込みによる業務使用の減少等により、野菜市場は供給過多の状態となり低調な単価推移となりました。この影響を受け、きのこ市場単価も前年に比べやや低調に推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは、中期経営計画に基づき、これまで長年培ってきた当社の生産技術・ノウハウ、販売力を活かし、プレミアムきのこ総合メーカーとしての基盤の確立を図っております。これに加え、まいたけを中心としたきのこが持つ機能性の開発と訴求により、安全・安心な製品を提供することを通じて消費者の健康に寄与し、健やかな社会の実現に貢献すべく事業展開を図ってまいりました。

当第3四半期連結累計期間の収益は、39,712百万円(前年同期比2.5%増)、このうち、売上収益は、25,956百万円(同1.9%増)となりました。売上総利益は、13,448百万円(同4.7%増)となりました。販売費及び一般管理費は、6,191百万円(同0.2%減)となりました。

以上の結果、営業利益は、7,098百万円(同13.5%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、4,265百万円(同12.8%増)となりました。なお、当第3四半期連結累計期間においては、IAS第41号「農業」の適用に関する公正価値変動による利得が、収益に13,755百万円、売上原価に12,841百万円、それぞれ含まれております。

[2021年3月期第3四半期連結累計期間業績]

(百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	増減率 (%)
売上収益	25,473	25,956	1.9
公正価値変動による利得	13,252	13,755	3.8
収益合計	38,726	39,712	2.5
営業利益	6,253	7,098	13.5
税引前四半期利益	5,897	6,503	10.3
四半期利益 (親会社の所有者帰属)	3,780	4,265	12.8

当第3四半期連結累計期間における事業セグメント別の売上収益の状況は以下のとおりであります。

[茸事業]

#### ① まいたけ

まいたけが持つ機能性を訴求するとともに、旨味と風味のバランスや食感の良さ等、食材としてお客様からの高い評価の獲得を通じて、季節の食材ではなく通年食材としての地位確立と、豊富な製品ラインアップを活かした製品戦略を展開しました。当第3四半期連結累計期間においては、販売単価は前年同期を下回りましたが、販売数量は堅調に推移しました。この結果、まいたけ事業の売上収益は15,020百万円(前年同期比2.7%増)となりました。

#### ② エリンギ

生産品質の向上により安定した供給を実現したことに加え、消費者が手間をかけずにすぐに使える利便性の高いスライス製品を投入する等、製品ラインアップの拡充を図り、当第3四半期連結累計期間においては、販売数量は前年同期をやや下回りましたが、販売単価は前年同期を上回りました。この結果、エリンギ事業の売上収益は2,630百万円(同1.8%増)となりました。

③ ぶなしめじ

青果市況と市場の動向を注視しながら、需給バランスに応じて1株製品と2株製品といった量目が異なる製品を活用し柔軟な製品投入を実施しました。また直近は、秋限定パッケージでの製品展開を活用し1株製品の拡充を図り、当第3四半期連結累計期間においては、販売数量は前年同期をやや下回りましたが、販売単価は前年同期を上回りました。この結果、ぶなしめじ事業の売上収益は5,027百万円(同3.5%増)となりました。

④ 茸その他

2019年10月に取得した株式会社三蔵農林が売上の増加に寄与しました。この結果、茸その他事業の売上収益は、2,886百万円(同55.7%増)となりました。

[その他]

その他事業の売上収益は、2020年2月のカット野菜及び納豆事業終了の影響により、392百万円(同74.8%減)となりました。

各事業セグメント別売上収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	増減率 (%)
茸事業	23,918	25,564	6.9
まいたけ	14,624	15,020	2.7
エリンギ	2,583	2,630	1.8
ぶなしめじ	4,856	5,027	3.5
茸その他	1,854	2,886	55.7
その他	1,555	392	△74.8
売上収益	25,473	25,956	1.9

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末(2020年12月31日時点)の資産合計は、36,512百万円(前連結会計年度末比1,313百万円増)となりました。流動資産は、11,160百万円(同114百万円増)となりました。これは主に、借入金の約定弁済及び期限前弁済により現金及び現金同等物が2,312百万円減少した一方、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関休業日であったことにより営業債権及びその他の債権が1,391百万円、公正価値変動による利得により生物資産が992百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。非流動資産は、25,352百万円(同1,198百万円増)となりました。これは主に、まいたけ増産に係る設備増強・更新等に伴って有形固定資産が1,363百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、27,896百万円(同2,400百万円減)となりました。流動負債は、9,140百万円(同1,859百万円増)となりました。これは主に、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関休業日であったことにより営業債務及びその他の債務が1,485百万円増加したこと等によるものであります。非流動負債は、18,756百万円(同4,260百万円減)となりました。これは主に、約定弁済及び期限前弁済により借入金が4,164百万円減少したこと等によるものであります。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末の資本合計は、8,615百万円(同3,714百万円増)となりました。これは主に、利益剰余金が中間配当の実施により557百万円減少した一方、業績好調により親会社の所有者に帰属する四半期利益4,265百万円を計上したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ2,312百万円減少し、2,148百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、5,844百万円(前年同期は2,443百万円の獲得)となりました。これは主に、税引前四半期利益6,503百万円や減価償却費及び償却費1,472百万円の計上があった一方、生物資産の増加992百万円や法人所得税の支払2,347百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、2,981百万円(前年同期は1,044百万円の使用)となりました。これは主に、まいたけ増産に係る設備増強・更新等に伴う有形固定資産の取得による支出2,972百万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、5,175百万円(前年同期は3,601百万円の使用)となりました。これは主に、約定弁済及び期限前弁済の実施により長期借入金の返済による支出4,462百万円、配当金の支払549百万円等があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2020年9月17日の「東京証券取引所市場第一部への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当該業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等はさまざまな要因により異なる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2020年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	4,461	2,148
営業債権及びその他の債権	2,141	3,532
棚卸資産	1,292	1,385
生物資産	3,019	4,012
その他の金融資産	0	-
その他の資産	131	81
流動資産合計	11,045	11,160
非流動資産		
有形固定資産	16,710	18,073
投資不動産	364	336
のれん及び無形資産	5,320	5,308
使用権資産	597	498
退職給付に係る資産	310	293
その他の金融資産	152	144
繰延税金資産	646	642
その他の資産	50	55
非流動資産合計	24,153	25,352
資産合計	35,199	36,512

(単位:百万円)

	前連結会計年度末 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2020年12月31日)
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	2,390	3,875
未払法人所得税	1,539	1,581
従業員給付に係る負債	1,577	1,628
1年内返済予定の長期借入金	942	1,132
リース負債	196	197
その他の金融負債	26	243
その他の負債	605	480
流動負債合計	7,280	9,140
非流動負債		
借入金	22,438	18,273
リース負債	483	387
繰延税金負債	11	11
引当金	17	17
その他の金融負債	55	63
その他の負債	10	2
非流動負債合計	23,017	18,756
負債合計	30,297	27,896
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	△6,046	△6,046
利益剰余金	10,828	14,536
その他の資本の構成要素	17	30
親会社の所有者に帰属する持分合計	4,899	8,620
非支配持分	1	△4
資本合計	4,901	8,615
負債及び資本合計	35,199	36,512



(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書  
(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
収益		
売上収益	25,473	25,956
公正価値変動による利得	13,252	13,755
収益合計	38,726	39,712
売上原価(*1)	25,878	26,263
売上総利益	12,847	13,448
販売費及び一般管理費	6,207	6,191
その他の収益	238	37
その他の費用	625	195
営業利益	6,253	7,098
金融収益	88	1
金融費用	445	595
税引前四半期利益	5,897	6,503
法人所得税費用	2,118	2,244
四半期利益	3,779	4,259
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	3,780	4,265
非支配持分	△0	△5
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	94.86	107.04
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	94.80	106.94

経営者は同業他社との比較可能性を勘案し、「材料費、人件費等」の情報は財務諸表利用者にとって有用であると考え  
ていることから、要約四半期連結損益計算書に注記として自主的に開示しております。「材料費、人件費等」は、IAS第  
41号「農業」に基づき認識した公正価値変動による利得を含まない当社グループが販売した製品の製造原価及び商品の仕  
入原価であります。

(*1) 売上原価の内訳		
材料費、人件費等	14,056	13,421
公正価値変動による利得	11,822	12,841
合計	25,878	26,263

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
四半期利益	3,779	4,259
その他の包括利益(税効果控除後)		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する資本性金融資産	△3	11
純損益に振り替えられることのない項目合計	△3	11
その他の包括利益(税効果控除後)合計	△3	11
四半期包括利益	3,775	4,271
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	3,776	4,277
非支配持分	△0	△5

## (3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2019年4月1日残高	100	△4,360	6,524	44	2,308	3	2,312
四半期利益	-	-	3,780	-	3,780	△0	3,779
その他の包括利益	-	-	-	△3	△3	-	△3
四半期包括利益合計	-	-	3,780	△3	3,776	△0	3,775
剰余金の配当	-	△1,685	-	-	△1,685	-	△1,685
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	-	-	3	△3	-	-	-
その他	-	-	-	3	3	-	3
所有者との取引額等合計	-	△1,685	3	△0	△1,682	-	△1,682
2019年12月31日時点の残高	100	△6,046	10,308	40	4,402	2	4,404

当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2020年4月1日残高	100	△6,046	10,828	17	4,899	1	4,901
四半期利益	-	-	4,265	-	4,265	△5	4,259
その他の包括利益	-	-	-	11	11	-	11
四半期包括利益合計	-	-	4,265	11	4,277	△5	4,271
剰余金の配当	-	-	△557	-	△557	-	△557
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	1	1	-	1
所有者との取引額等合計	-	-	△557	1	△556	-	△556
2020年12月31日時点の残高	100	△6,046	14,536	30	8,620	△4	8,615

## (4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	5,897	6,503
減価償却費及び償却費	1,302	1,472
減損損失	365	10
支払利息	387	371
シンジケートローン手数料	54	222
固定資産売却損益(△は益)	△197	△2
固定資産除却損	201	81
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△676	△1,391
棚卸資産の増減額(△は増加)	△432	△92
生物資産の増減額(△は増加)	△1,219	△992
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	△482	1,431
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	19	17
従業員給付に係る負債の増減額(△は減少)	△815	50
その他	△510	477
小計	3,893	8,160
利息の支払額	△222	△105
シンジケートローン手数料の支払額	△28	△11
法人所得税の支払額	△1,542	△2,347
法人所得税の還付額	343	149
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,443	5,844
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,236	△2,972
有形固定資産の売却による収入	703	3
無形資産の取得による支出	△23	△4
子会社株式の取得による支出	△441	-
その他	△46	△8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,044	△2,981
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△1,563	△4,462
社債の償還による支出	△200	-
リース負債の返済による支出	△150	△163
配当金の支払額	△1,685	△549
その他	△1	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,601	△5,175
現金及び現金同等物に係る為替変動の影響額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,201	△2,312
現金及び現金同等物の期首残高	6,617	4,461
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,415	2,148

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

① 報告セグメント

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会（最高経営意思決定者）が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品及びサービスについて、包括的な戦略を立案し、事業活動を展開している「茸事業」を報告セグメントとしております。「その他」は報告セグメントに含まれない事業が含まれております。

なお、まいたけ事業、エリンギ事業及びぶなしめじ事業等は、売上収益の推移など経済的特徴が概ね類似しており、かつ、(a) 製品及びサービスの性質、(b) 生産過程の性質、(c) 当該製品及びサービスの顧客の類型又は種類、(d) 当該製品の配送又は当該サービスの提供のために使用する方法、(e) 規制環境の性質のすべてが類似しているため、「茸事業」として集約しております。報告セグメントの事業内容は次のとおりであります。

	事業内容
茸事業	まいたけ、エリンギ、ぶなしめじ等、茸製品の製造販売

② 報告セグメント情報

報告セグメントの会計処理の方法は、当社グループの会計方針と同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上収益は市場実勢価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間（自2019年4月1日 至2019年12月31日）

(単位：百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	23,918	1,555	25,473	-	25,473
セグメント間の内部売上収益	-	2	2	△2	-
計	23,918	1,558	25,476	△2	25,473
セグメント利益又は損失(△)	5,937	123	6,061	192	6,253
金融収益					88
金融費用					445
税引前四半期利益					5,897

(注) セグメント利益又は損失(△)の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

当第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年12月31日）

(単位：百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	25,564	392	25,956	-	25,956
セグメント間の内部売上収益	-	20	20	△20	-
計	25,564	412	25,977	△20	25,956
セグメント利益又は損失(△)	7,070	103	7,173	△75	7,098
金融収益					1
金融費用					595
税引前四半期利益					6,503

(注) セグメント利益又は損失(△)の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

(1株当たり利益)

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定基礎は以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	3,780	4,265
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益(百万円)	-	-
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	3,780	4,265
期中平均普通株式数(千株)	39,850	39,850
基本的1株当たり四半期利益(円)	94.86	107.04
希薄化後1株当たり四半期利益算定上の基礎		
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	3,780	4,265
四半期利益調整額(百万円)	-	-
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	3,780	4,265
期中平均普通株式数(千株)	39,850	39,850
新株予約権による普通株式増加数(千株)	25	36
希薄化後期中平均普通株式数(千株)	39,875	39,886
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	94.80	106.94

(注) 当社は2020年7月30日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。